

がん性腹膜炎・胸膜炎

Dr.

和の町医者の日記

「がんの基礎知識」シリーズ⑧

今週も川島なお美さんの生きた方について考えてみましょう。

彼女は胆管がんで亡くなりましたが、胆管にできた腫瘍だけでは亡くならなかつたはず。がん細胞が胆管だけでなくおなか中に広がり、「がん性腹膜炎」になつたので命を奪われたはずで

す。おなかにはがんといえは、胃がん、大腸がん、膵臓がん、胆管がんなどがありま



長尾和宏 (ながお・かずひろ)
東京医大卒業後、大阪大第二内科入局。平成7年、尼崎市で「長尾クリニック」を開業。外来診療から在宅医療まで「人を診る、総合診療を目指す。医学博士。近著「平穏死・10の条件」「胃ろうという選択、しない選択」はいずれもベストセラー。関西国際大学、東京医科大学客員教授。57歳。

腹水・胸水とどう付き合おうか

動運動できない状況に陥ると消化液が停滞して口側に上がり、嘔吐します。つまり腸がつまるのですが、その状態を腸閉塞と呼びます。

また「がん性腹膜炎」は、文字どおり「炎症」ですからそれに反応した液体がたまりますが、それを「腹水」と呼びますが、単なる「お水」ではありません。血液のうち赤血球を除いた成分、つまり血漿と呼ばれる栄養分を多く含む液体です。

がん性腹膜炎 腹腔内の消化器がんや婦人科のがんが進行して終末期になると、腫瘍からがん細胞が脱落して腹膜の全面にわたりがんの小さな結節がまかれたような状態になり、それをがん性腹膜炎と呼ぶ。

「えっ？ 腹水がらぶもあのに立ってるの？ 抜かなく薬や注射の利尿剤により、栄養迎えるヒントに思えました。」

おなかのがんの最終型の多くは「がん性腹膜炎」であり、おなかの液体がたまり、腸閉塞や腹水という症状が起きます。実は、お水は胸の中にもたまり、つまり肺がしゅわんなどでも同様です。つまり、がんが胸の中いっばいに広がり、「がん性胸膜炎」を起こした結果、胸水がたまるのです。

報道によると川島さんは5リットルの腹水がたまった状態で、亡くなる1週間前まで舞台上に立たれたそうです。

「えっ？ 腹水がらぶもあのに立ってるの？ 抜かなく薬や注射の利尿剤により、栄養迎えるヒントに思えました。」

「えっ？ 腹水がらぶもあのに立ってるの？ 抜かなく薬や注射の利尿剤により、栄養迎えるヒントに思えました。」

「えっ？ 腹水がらぶもあのに立ってるの？ 抜かなく薬や注射の利尿剤により、栄養迎えるヒントに思えました。」